

第7回日本心臓血管麻酔学会学術大会・総会

古家 仁*

2002年9月21日、22日の2日間、神戸市立中央市民病院副院長の加藤浩子先生を会長として神戸の国際会議場で本年度の第7回日本心臓血管麻酔学会学術大会・総会が開催された。この会場は1987年に第1回国際心臓血管麻酔学会（担当齋藤隆雄徳島大学教授、故藤田昌雄東京女子医科大学教授）が開催された地であり、また、他にも数々の学会が開催されており、多くの麻酔科医には慣れ親しんだ会場で、今回も非常にたくさんの会員が出席した。

加藤会長は今回の学会のテーマを「高齢者の心臓手術と麻酔」とされ、招請講演やパネルディスカッションにも取り上げられていた。内容として Mount Sinai School of Medicine の Konstadt 教授は、“New development in cardiovascular medicine for the elderly” というタイトルで、現在のアメリカでの高齢者の心臓外科手術について、低侵襲手術や intervention など新しい知見を織り交ぜながら話をされていた。また、私は直接聞くことが出来なかったのであるが、University of Chicago の Aronson 教授は、“Perioperative risk & hypertension” というタイトルで、isolated systolic hypertension (ISH) と pulse pressure (PP) についてその測定の意味や危険性について話をされたようであった。

一般演題はポスターセッションとして行われた。今回は同時発表がそれぞれ別の部屋で行われたため、別のセッションの音が聞こえて発表しにくいという感じはなかった。藤田昌雄賞には5題ノミネートされ、その中から東京女子医科大学の向井詩保子先生による「僧帽弁形成術の経食道3Dエコーによる評価」が選出された。心臓血管麻酔科医の一つの方向性を示す発表であったと思わ

れる。

教育講演は6題で、恒例の文献レビューは55分であったが、それ以外には「輸血医療の現状と問題点」、「最近話題の人工血管」、「心筋保護法の進歩と最近の話題」、「不整脈最新の治療」、「肺高血圧治療の最新動向」というタイトルで30分という講演時間で行われ、濃縮された内容に演者も聴衆も緊張を保った状態を維持できたように感じた。文献レビューは、今回は「今年のテーマは coronary」という内容で講演が行われた。大阪大学の林先生が毎年担当され、会員の間にも人気の講演であるが、毎年用意をする林先生の負担は言葉で表せないものがあり、われわれ会員一同感謝の気持ちで一杯である。また講演以外に5つのパネルディスカッションも開催された。その内容も「体外循環と炎症反応」「TOFの麻酔管理」「高齢者大動脈弁狭窄症を考える」「開心術と非開心術の重複手術の麻酔管理」「OFF pump CABG:PDE III 阻害薬の Pro/Con」と心臓血管麻酔全般にわたっており、加藤会長の配慮が伺われた。とくに炎症反応に関しては体外循環という侵襲だけでなく、手術そのもの、あるいはそれに対する麻酔、という面からも今後も深く追求する必要がある領域と感じた。さらにディベートが2題組まれており、一つは「より複雑な小児心臓麻酔管理をめぐって」というタイトルで、もう一つは「分離肺換気チューブの選択：私はこうする：右か左か」というタイトルで行われた。このディベートは会員の間では評判の取り組みになっており、また私個人も興味を持って参加できた。今回はアナライザーシステムを使用した聴衆参加型形式で行われた。以前国立循環器病センターの畔先生が会長の時にも実施されたが、今回も興味深かった。私は分離肺換気

*奈良県立医科大学麻酔科学教室

が非常におもしろかった。前もって演者にそれぞれ役割を分担しているが、自分の独自のやり方を持っている演者を選出していたためとも思われるが、議論が白熱化し聴衆も一体になってディベートに参加していた。

恒例の TEE (経食道心エコー) セミナーも基礎編 (basic) と応用編 (advance) に分けて開催され、相変わらず多くの会員に人気があった。TEE セミナーは事前登録制で、basic が240名、advance が110名であったが、事前にそれぞれ満員となっていた。また、今回から CPB (人工心臓) ワークショップが開催され、事前登録 (定員30名) も一杯になるなど、新しい方向性が示されたように思われる。CPB 中の管理は現在は心臓外科医の元で行われているが、そのうちに麻酔科医が指示するようになると思われ、また、開心術以外にも PCPS や人工透析への応用など、麻酔科医も CPB の基本を理解しておく必要があり、本ワークショップは今後継続して行われることが望まれる。今回は臨床工学技士も参加しており、今後この件をどうしていくかは検討の余地がある。

今年の学会では、医療機器展示が約20社の出展で行われていたが、とくに加藤会長の御配慮でエコーに関して別の展示場を設け、そこにエコーばかり6社が出展していた。ゆっくりエコーに関して業者と話をする場を作っていただきエコーに興味を持っている会員には実りがあったと思われる。

最近の発表の流れとして、コンピュータ (PC) を使用しての発表が増えてきている。今回の学会ではスライド、PC ともに使用可能であったが、PC での発表でトラブルが全く起こっていなかったのには感心した。事前の用意、対応のシステムがきちっと出来ていた結果と思われる。参考にし

たいと思っている。

総会の中での特記事項として、名誉会員を置くことが認められ、来年から本会に功績のあった先生に名誉会員の称が授与されることとなった。

また、今回の会員懇親会には故藤田昌雄教授の令夫人が出席くださり、藤田先生がご存命の頃の懐かしいお話をされ、またこのように活発な学会に育ったことをお喜びになっておられた。来年も是非出席を賜りたいものである。

来年は、筆者が会長として選出されているため、奈良市にある新公会堂で9月の27日(土)、28日(日)の両日に開催の予定である。奈良県では麻酔科関連の学会、研究会は殆ど行われておらず、是非一度奈良にお越しいただきたいと思い、奈良市での開催にさせていただいた。会員の先生方も奈良は遠いという感覚をお持ちのことと思う。そして以前お越しになった方も修学旅行とか遠足で小さい頃に来たことがある、という先生方が殆どと思われる。しかし、現在京都市、大阪市から1時間以内で来ることが出来、また気候も良い時期のため、学会の前後で休暇を取っていただきご家族でのお越しをお待ちしている。テーマとして「これからの心臓血管麻酔が目指す方向は？」とさせていただいた。これは昔著者らが心臓血管麻酔を始めた頃に比べて心臓外科手術も変わってきたが、麻酔に関しても大きく変わってきている、さらにこれからも変わっていくことが予想され、それを皆で考えてみたいと思ったのがきっかけである。また、新しい形での文献レビュー、TEE セミナー、CPB ワークショップも引き続き開催する。

平成15年の秋、是非多くの先生方のお越しをお待ちしております。